

# 「ものづくり日本大賞」

## フジイが関東経産局優秀賞受賞

### 革新的溶接ロボットシステム

経産省、国交省、厚労省、文科省は第4回「ものづくり日本大賞」の内閣総理大臣賞を決定。この中でフジイコーポレーションが経産省関係の製造・生産プロセス部門で「若手社員が業界の非常識に挑戦、溶接治具の簡易化とFMS化に成功した」として優秀賞を受賞。3月2日、それに携わった10名が上京。大田区産業プラザで行われた表彰式で表彰を受けた。



賞状を手にする大島氏と一行。左端は磯部氏、右端は藤井社長

「ものづくり日本大賞」を担っている中堅人材や製造・生産現場の中核・伝統的・文化的な「技」

を支えてきた熟練人材・今後を担う若手人材など「ものづくり」に携わっている各世代のうち、特に優秀と認められる人材を顕彰する制度。本賞は経産省、国交省、厚労省、文科省が連携、平成17年から隔年開催しており、今回で4回目。3月2日、大田区産業プラザで行われた優秀賞の表彰式には主催者を代表して経産省関東経済産業局の照井恵光局長が出席、受賞者に賞状を手渡した。関東経済産業局管内の受賞は内閣総理大臣賞が2件、経済産業大臣賞が3件、特別賞が2件、優秀賞が

11件。【フジイコーポレーションの受賞の理由と背景】2000年当時、溶接ロボット業界では、溶接治具の簡易化及び溶接ロボットのフレキシブルミニユファクチャリングシステム（以下FMS化）は不可能というのが常識だった。しかし、フジイコーポレーションでは、「多品種少量生産」を可能にする1台流しの混流生産こそが中小企業が生き残るための大きな課題である、との認識から経験の浅い若手社員による「非常識の挑戦」が始まり、ついに溶接治具の簡易化

と溶接ロボットのFMS化に成功した。挑戦に参加、今回、表彰を受けたのは大島泰男（代表）、宮嶋弘志、平田千博、小林忠幸、永塚健、樋口政雄、金子稔樹、米谷正司、渡辺賢介、高橋喜靖の10氏。実現に当たっては新潟県の補助金制度などの支援も受けており、いわば官民一体のプロジェクト。

この結果、溶接治具を簡易化したことにより、治具数を1/4、治具費を1/2、治具作成時間を1/3に削減。また、治具の簡易化などにより溶接率を倍増したロボットのFMS化で生産に必要な溶接ロボットの台数を1/4、設備投資費を1/2にそれぞれ低減した。現在、この溶接システムは新たな領域での生産に採用されており、フ

エーズIIはプレス部品をコンプリートしているタイルスプレス事業で、フエーズIIは除雪機・草刈機・高所作業機などの機械事業で活躍している。当時を振り返って大島さんは「社内外で、そんなことは非常識だ」という声が強かったが、このまま溶接の治具が増え続けると工場の中が治具で埋めつくされてしまう、の思いから無我夢中で取り組み、なんとか成功にこぎつけた」と晴れ晴れしい表情をみせると同時に、「私は非常識のリーダーです」と笑う。また大島さんは、「成功したのは会社の理解や新潟県の支援も大きかった」という。この大島さん達若手の成長が、ペテラを刺激して更なる成功に結びつき、これ以降、会社全体が新しいチャレンジに積極的に取り組み、併せて工場全体が革新的なものづくりへと進

化している。当日は新潟県工業技術総合研究所下越技術支援センターの磯部錦平センター長（工学博士）と、フジイコーポレーションの藤井大介社長も同行。磯部センター長は「今後とも出来るだけの協力を続けていく」。また、藤井社長は「社員が強制でなく、自発的にやってくれたのが一番うれしい。この成功が当社だけでなく、広く皆様のお役に立てればと、願っている」と述べた。